

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 24 年度 第 3 回理事会

開催日時 平成 24 年 6 月 14 日（木）
午後 5 時 00 分から午後 7 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 3 号館 7 階 320 号室
（東京都文京区弥生 2-11-16）

平成 24 年度 第3回 理事会 次第

1. 開 会

2. 報 告 事 項

1. 2012 年連合大会総括

2. 新体制について

3. 委員会報告

総務委員会

財務委員会

広報普及委員会

環境・災害対応委員会

男女共同参画委員会

教育問題検討委員会

情報システム委員会

学術出版委員会

大会運営委員会

国際学術委員会

キャリア支援委員会

3. 審 議 事 項

第 1 号議案 連合大会開催日程について

第 2 号議案 国際対応・方針について

第 3 号議案 大気海洋・環境科学セクション名称変更について

第 4 号議案 ジャーナルについて

第 5 号議案 その他（会費および大会参加登録費について他）

4. 開 会

(資 料)

1.	公益社団法人日本地球惑星科学連合 新体制 理事セクション名簿	P1-3
2.	委員会報告 総務委員会 財務委員会 大会収支報告書 (6/11 現在) 広報普及委員会 環境・災害対応委員会 委員会議事録 学協会からの活動報告 男女共同参画委員会 報告詳細 情報システム委員会 大会運営委員会 総括 入場者数 アンケート集計 国際学術委員会	P4 P5 P6-7 P8 P9-10 P11-12 P13-18 P19-20 P21-27 P28-29 P30 P31 P32 P33-35 P36
3.	国際対応・方針 AGU MOU AOGS 現 MOU/ MOU 見直し案 / Letter to the President . . EGU MOU AGU Registration Fee AOGS Registration Fee EGU Registration Fee	P37 P38/39/40-41 P42 P43-44 P45-46 P47
	規則集	別冊

公益社団法人日本地球惑星科学連合 新体制

理事会

	氏名	所属
代表理事（会長）	津田 敏隆	京都大学生存圏研究所
理事（副会長）	川幡 穂高	東京大学大気海洋研究所
理事（副会長）	木村 学	東京大学大学院理学系研究科
理事（副会長）	中村 正人	宇宙航空研究開発機構
理事	ウオリス サイモン	名古屋大学大学院環境学研究科
理事	小口 高	東京大学空間情報科学研究センター
理事	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科
理事	北 和之	茨城大学理学部
理事	佐藤 薫	東京大学大学院理学系研究科
理事	杉田 倫明	筑波大学大学院生命環境科学研究科
理事	瀧上 豊	関東学園大学
理事	竹村 恵二	京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設
理事	田近 英一	東京大学大学院新領域創成科学研究科
理事	成瀬 元	京都大学大学院理学研究科
理事	西 弘嗣	東北大学総合学術博物館
理事	畠山 正恒	聖光学院中学高等学校
理事	浜野 洋三	海洋研究開発機構
理事	古村 孝志	東京大学地震研究所
理事	松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
理事	渡邊誠一郎	名古屋大学大学院環境学研究科

※選任日 2012 年 5 月 24 日、理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで。

監事

	氏名	所属
監事	松浦充宏	統計数理研究所
監事	鈴木	弁護士

※監事の任期は、選任後 4 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで。

セクションサイエンスボード

	氏名	所属
宇宙惑星科学		
プレジデント	大村 善治	京都大学生存圏研究所
バイスプレジデント	佐々木 晶	国立天文台
バイスプレジデント	高橋 幸弘	北海道大学大学院理学院宇宙物理学専攻
幹事	小嶋 浩嗣	京都大学生存圏研究所
	田近 英一	東京大学大学院新領域創成科学研究科
	常田 佐久	自然科学研究機構国立天文台
	長妻 努	情報通信研究機構電磁波計測研究所
	永原 裕子	東京大学大学院理学系研究科
	中村 昭子	神戸大学大学院理学研究科
	中村 正人	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
	中本 泰史	東京工業大学大学院理工学研究科

	藤井 良一	名古屋大学
	藤本 正樹	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
	塚本 尚義	北海道大学大学院理学研究院
	渡部 潤一	自然科学研究機構国立天文台
	渡邊 誠一郎	名古屋大学大学院環境学研究科
大気海洋・環境科学		
プレジデント	中島 映至	東京大学大気海洋研究所
バイスプレジデント	杉田 倫明	筑波大学大学院生命環境科学研究科
幹事	川合 義美	海洋研究開発機構地球環境変動領域
	沖 理子	宇宙航空研究開発機構宇宙利用ミッション本部
	神沢 博	名古屋大学大学院環境学研究科
	鬼頭 昭雄	気象庁気象研究所
	近藤 豊	東京大学大学院理学系研究科
	多田 隆治	東京大学大学院理学系研究科
	知北 和久	北海道大学大学院理学研究院
	日比谷 紀之	東京大学大学院理学系研究科
	花輪 公雄	東北大学大学院理学研究科
	松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
	村山 泰啓	情報通信研究機構電磁波計測研究センター
地球人間圏科学		
プレジデント	氷見山 幸夫	北海道教育大学教育学部
バイスプレジデント	佐竹 健治	東京大学地震研究所
バイスプレジデント	春山 成子	三重大学大学院生物資源学研究科
幹事	島津 弘	立正大学地球環境科学部
	荒井 良雄	東京大学大学院総合文化研究科
	井田 仁康	筑波大学大学院人間総合科学研究科
	碓井 照子	奈良大学文学部
	海津 正倫	奈良大学文学部
	岡本 耕平	名古屋大学大学院環境学研究科
	小口 高	東京大学空間情報科学研究センター
	小口 千明	埼玉大学地圏科学研究センター
	奥村 晃史	広島大学大学院文学研究科
	後藤 和久	千葉工業大学惑星探査研究センター
	須貝 俊彦	東京大学大学院新領域創成科学研究科
	鈴木 毅彦	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
	鈴木 康弘	名古屋大学減災連携研究センター
	千木良 雅弘	京都大学防災研究所
	藤原 広行	防災科学技術研究所
	近藤 昭彦	千葉大学環境リモートセンシング研究センター
	松本 淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科
	渡辺 悌二	北海道大学大学院地球環境科学研究院
固体地球科学		
プレジデント	大谷 栄治	東北大学大学院理学研究科
バイスプレジデント	歌田 久司	東京大学地震研究所
	木村 純一	海洋研究開発機構
	入船 徹男	愛媛大学地球深部ダイナミクス研究センター教授
	岩森 光	東京工業大学大学院理工学研究科
	ウオリス サイモン	名古屋大学
	大久保 修平	東京大学地震研究所
	唐戸 俊一郎	イエール大学
	川勝 均	東京大学地震研究所

	中田 節也	東京大学地震研究所
	成瀬 元	京都大学大学院理学研究科
	西山 忠男	熊本大学大学院自然科学研究科
	古村 孝志	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター
	日置 幸介	北海道大学理学研究院
	松澤 暢	東北大学大学院理学研究科
	道林 克禎	静岡大学地球科学科
地球生命科学		
プレジデント	北里 洋	海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域
バイスプレジデント	小林 憲正	横浜国立大学大学院工学研究院
バイスプレジデント	川幡 穂高	東京大学大学院新領域創成科学研究科
幹事	生形 貴男	静岡大学理学部
幹事	高野 淑識	海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域
	稲垣 史生	海洋研究開発機構高知コア研究所
	遠藤 一佳	東京大学大学院理学系研究科
	大河内直彦	海洋研究開発機構海洋極限環境生物圏研究領域
	鈴木 庸平	東京大学大学院理学系研究科
	奈良岡 浩	九州大学大学院理学研究院
	西 弘嗣	東北大学総合学術博物館
	真鍋 真	国立科学博物館地学研究部
	山岸 明彦	東京薬科大学生命科学部

※セクションプレジデントの任期は、2012年6月1日から2014年5月31日まで

2005年5月25日 任意団体 日本地球惑星科学連合設立

2005年5月25日～2007年5月31日 第1期 （浜野運営会議議長 1期目）

2007年6月1日～2008年11月30日 第2期 （木村運営会議議長 1期目）

2008年12月1日に連合は法人格を取得。

2008年12月1日～2009年3月31日 一般社団法人第1期 （木村会長 1期目）

2009年4月1日～2010年3月31日 一般社団法人第2期 （木村会長 1期目）

2010年4月1日～2011年3月31日 一般社団法人第3期 （木村会長 2期目（総会後））

2011年4月1日～2011年11月30日 一般社団法人第4期 （木村会長 2期目）

2011年12月1日～2012年3月31日 公益社団法人第1期 （木村会長 2期目）

2012年4月1日～2013年3月31日 公益社団法人第2期 （津田会長 1期目（総会後））現在

総務委員会議事録

日時：5月21日 19時～20時

場所：幕張メッセ 国際会議場 会議室102A

出席者

大村善治（委員長）、中島健介、古村孝志（次期委員長候補：オブザーバー）

欠席者

吉田武義、岩上直幹、棚部一成、西村浩一、大湊隆雄

中村正人、近藤忠、平田岳史、尾公一、篠原雅尚、野村文明、

報告事項

1. 事業報告書について

平成23年度の連合の事業について取りまとめた。

2. 事業計画について

平成24年度の事業計画案を作成し、理事会にて確認済み。

議事

1. 次期総務委員について、

次期委員長（古村）を中心に、各セクションのボードメンバーから1, 2名ずつ委員を選出することを依頼する方針。大村は委員として残る。

2. その他

連合ジャーナル出版に関わる業務拡大に対応するために、事務局体制の強化が課題である。

総務委員会は連合大会会期中だけではなく、秋頃にも開催することも検討する。

平成 23 年度 (財務委員会)	
担当者名	西 弘嗣
活動報告	
平成 23 年度は一般法人会計が 1 1 月に修了し、1 2 月より公益	
法人会計となった。そのため、2 回の決算報告を行った。	
その後、両者に関して監査を受け、承認された。それと同時に	
24 年度の予算作成を 3 月に行った。その後、4 月に最終的な	
公益法人決算を修了し、総会にて報告した。	
活動時期と内容	
23 年 3 月	予算書作成。第 4 期法人会計の決算書作成開始。
23 年 3 月	会計監査
23 年 4 月	第 1 期公益法人会計の決算書作成

2012年大会 収支計算書 (6/11現在)

	科 目	明 細	予算額	6/11現在実績
収 入			66,713,500	70,619,000
	大会参加料収入		41,303,265	43,825,000
	投稿料収入		8,626,475	9,134,500
	出展料(請求書ベース)		14,120,000	15,512,000
	会議室使用料(請求書ベース)		2,253,840	1,851,000
	懇親会収入		409,920	296,500
支 出			32,527,900	31,441,146
	賃借料		18,570,000	17,549,573
		幕張メッセ会場費	15,650,000	14,668,584
		設備機材	2,600,000	2,765,989
		受付用PC・プリンター	320,000	115,000
	会場設営費		3,800,000	3,956,400
		幕張メッセ	3,800,000	3,956,400
	委託費		2,118,000	1,885,000
		受付システム	1,400,000	1,233,750
		システム関連費(登録者メール配信)	300,000	231,000
		システム関連費(会合受付システム)	100,000	105,000
		システム関連費(公開用著者索引)	258,000	257,250
		日本語ポスター	30,000	30,000
		英語ポスターデザイン	30,000	28,000
	臨時雇賃金		2,760,000	2,543,000
		HP作成	260,000	260,000
		学生アルバイト	2,500,000	2,283,000
	印刷製本費		3,000,900	3,325,573
		プログラム印刷製本費	1,794,000	1,719,900
		英語プログラム印刷製本費	567,000	709,800
		その他印刷費(パブリック冊子)	50,000	126,000
		プログラム編集費	315,000	514,500
		英語ポスター印刷費	20,000	27,143
		ポスター製作費(12月投稿呼びかけ)	60,000	57,750
		ポスター製作費(3月参加呼びかけ)	60,000	20,540
		その他印刷費(会場前日程表)	56,000	68,040
		その他印刷費(ポスター会場図)	18,900	18,900
		その他印刷費(名札地模様印刷)	60,000	63,000
		その他		

	旅費交通費		990,000	1,076,870
		パブリケーション講師旅費	270,000	388,000
		連合大会時宿泊料(スタッフ)	600,000	600,000
		連合大会時交通費(スタッフ)	20,000	11,870
		ボランティア旅費	0	77,000
		会議旅費	100,000	23,000
	通信運搬費		126,000	108,000
		英語ポスター(A2)発送費 400部	32,000	32,000
		大会期間事務局移動費用赤帽往復	30,000	21,000
		ポスター発送費(12月投稿呼びかけ)	32,000	29,000
		ポスター発送費(3月参加呼びかけ)	32,000	26,000
	消耗品		570,000	539,820
		連合大会名札ケース	150,000	157,500
		連合大会名札用紙	120,000	126,000
		連合大会時使用消耗品類	150,000	93,000
		連合大会表彰ガラス盾一式	150,000	163,320
	懇親会費用		500,000	350,000
			500,000	350,000
	雑費		93,000	106,910
		ボランティア保険	3,000	3,240
		保育ルーム補助金	90,000	86,000
		幕張 コピー代	0	17,670
			0	

1) 大会当日 現金収入

参加料	19,721,000
正会員会費	1,284,000
懇親会費	125,000
合計	21,130,000

平成 23 年度 (広報普及)委員会	
担当者名	田近英一
活動報告	
昨年度の広報活動としては、ニュースレター誌（JGL）を4回発行したほか、	
メールニュースを毎月配信，記者会見とプレスリリースを2回行った．また，連合HP	
のリニューアルを行った．普及活動としては，連合大会における一般公開プログラム	
としてトップセミナー及び高校生によるポスター発表，「サイエンスアゴラ」への参加	
のほか，一般公開講演会をはじめて秋に開催した．また，日立環境財団が主催する	
「環境サイエンスカフェ」への講師紹介等の協力・共催の連携覚書を取り交わした．	
活動時期と内容	
23年 5月	連合大会においてトップセミナー及び高校生ポスター発表開催
23年 11月	第1回公開講演会開催
23年 11月	サイエンスアゴラに参加
23年5月，8月， 11月，23年2月	日本地球惑星科学連合ニュースレター誌（JGL）発行
23年4月 ～24年3月	日本地球惑星科学連合メールニュース配信（毎月10日）
23年9月	日本地球惑星科学連合HPのリニューアル
23年6月， 24年1月	プレスリリース，記者会見

平成 23 年度 （ 環境災害対応 ）委員会	
担当者名	松本 淳
活動報告	
2010 年連合大会 ユニオンセッション「都市における極端気象」を主催。水文・水資源学会、日本気象学会、日本地理学会共催、土木学会、日本災害情報学会、日本自然災害学会協賛。代表コンビーナ：松本 淳、共同コンビーナ：真木雅之、石原正仁。 地球人間圏セッション「人間環境と災害リスク」を共催。主催：日本地理学会、共催：当委員会、日本第四紀学会、地理情報システム学会、日本国際地図学会、日本地質学会、火山学会。代表コンビーナ：青木賢人、共同コンビーナ：小荒井 衛、須貝俊彦、宇根 寛、中村洋一、長坂俊成、松本 淳。	
東日本大震災発生後の対応 HPの緊急ページ作成に協力、現地調査に関する緊急とりまとめ、先遣隊活動に関する情報提供協力、連合大会緊急セッションの開催準備（須貝）、震災緊急研究伝言板への協力（目代、吾妻）。 連合大会緊急セッション「東北地方太平洋沖地震」を日本地震学会と共催。代表コンビーナ：篠原雅尚、共同コンビーナ：田所敬一、須貝俊彦、中島映至。発表申込件数約190件。	
災害対応 WG 発足。主査：火山-中村、副査：地図-宇根、地震-田所、気象-石原、地理-須貝、活断層-吾妻、第四紀-田力、水・水-真木、委員長-松本 環境対応 WG 発足。主査：電磁気-小田、副査：リモセン-近藤、GIS-目代、気象-江守、第四紀-陶野、応用地質-大野、委員長-松本	
2011年連合大会 ユニオンセッション「東日本大震災からの復興にむけてー地球惑星科学と社会との関わりを考える」を共催。代表コンビーナ：春山成子、共同コンビーナ：氷見山幸夫・松本 淳・須貝俊彦・田所敬一・小田啓邦・近藤昭彦。 ユニオンセッション「巨大自然外力に対する水循環応答と生態系の緩和効果」を共催。代表コンビーナ：谷 誠、共同コンビーナ：立川康人・杉田倫明・恩田裕一・窪田順平・松本 淳 大気海洋・環境科学/大気科学・気象学・大気環境セッション「都市における極端気象」を主催。水文・水資源学会、日本気象学会、日本地理学会共催。代表コンビーナ：松本 淳、共同コンビーナ：真木雅之・石原正仁・小司禎教 領域外・複数領域/応用地球科学セッション「福島第一原子力発電所事故による環境汚染への地球科学からの挑戦」を共催。代表コンビーナ：北 和之、共同コンビーナ：池田元美・恩田裕一・滝川雅之・松本 淳 地球人間圏科学/社会地球科学・社会都市システムセッション「人間環境と災害リスク」を共催。共催：当委員会、日本第四紀学会、地理情報システム学会、日本国際地図学会、日本地質学会、火山学会。代表コンビーナ：鈴木康弘、共同コンビーナ：小荒井衛・須貝俊彦・宇根 寛・中村洋一・長坂俊成・松本 淳 東日本大震災と福島原発事故国際シンポジウム、International Symposium on “The Tohoku Earthquake and Fukushima Nuclear Accident” に協力。	

年2回定期的に委員会を開催し、参加学協会の動向等の情報を共有。連合大会でのセッション横断的で魅力的なセッションを積極的に提案する。当面は「都市における極端気象」、「人間環境と災害リスク」を定期的セッションとしてそれぞれ主催、共催するとともに、2011年3月の東日本大震災を受けての総合的なセッションを、関係セッション・学協会との連携の下で主催・共催していく方針。連合HPへの活動内容掲載ができておらず、今後の対応が必要。

活動時期と内容

2011 年	5 月	2011 年度 第 1 回 環境災害対応委員会開催
2011 年	10 月	2011 年度 第 2 回 環境災害対応委員会開催
2012 年	5 月	2012 年度 第 1 回 環境災害対応委員会開催

2012 年度第 1 回 地球惑星科学連合、環境・災害対応委員会 議事録

日時：2012 年 5 月 23 日 12:30～13:30

場所：幕張メッセ 101B

出席者：松本 淳（委員長）・須貝俊彦（副委員長・日本地理学会：書記）・中村洋一（日本火山学会）・石峯康浩（日本火山学会／環境対応委員として今期から参加予定）・田所敬一（日本地震学会）・小荒井 衛（日本地質学会）・林 武司（日本水文科学学会・日本地下水学会）・宮越昭暢（日本地熱学会）・奥村晃史（地理科学学会：代理）・真木雅之（水文・水資源学会／災害）・杉田倫明（水文・水資源学会／環境）・村山良之（東北地理学会／災害）・黒木貴一（東北地理学会／環境）（計 13 名）

1. 2011 年度後半の活動報告

出席委員から、各学協会の取り組みについて、配布資料等にもとづき、報告がなされた。委員が欠席した学協会については、当日までに連絡のあった日本堆積学会・日本気象学会・地球電磁気・地球惑星圏学会については、松本委員長から別紙配布資料に基づき紹介がなされた。他の欠席学会については、活動概要を後日に委員長宛に送付し、資料としてまとめておくこととした。

- ・日本地理学会：震災直後に災害対応本部（理事長本部長）を設置、学会ホームページ（HP）で情報提供。被災小中高への地理教育支援活動を会員の募金等で実施。シンポジウムを数回開催。
- ・水文・水資源学会：震災直後に会長談話を発表、特設 HP を設置。研究助成 3 件（福島大：アースフィルダム、広島大：地下水、筑波大：放射性物質の追跡と影響評価）。これらの講演会も実施。
- ・日本水文科学学会・地下水学会：水文・水資源学会と共同での研究助成 1 件：福島周辺の地下水調査。緊急災害時の地下水利用に関するシンポジウムを開催。
- ・日本火山学会：2011 年 10 月 1 日に火山防災シンポジウム「北海道の火山とともに」開催（予稿集を学会 HP に掲載）、2012 年 5 月 21 日に日本火山学会火山防災委員会開催。
- ・日本地熱学会：地熱エネルギーの利用促進に関する提言の実施や各種問い合わせに対応（HP にて公開）学術講演会において国立公園内の地熱開発と温泉の共生をテーマとしたタウンフォーラムを開催。
- ・東北地理学会：2011 年春大会、11 年秋シンポジウムで震災関係の特別セッションを開催。当初は自然地理が多かったが、次第に人文地理の発表が増加。人文・自然共通セッションの拡大。英文 HP を開設。季刊地理学特集号、英語の単行本の刊行を実施。
- ・日本地質学会：災害対応委員会 HP で情報提供。応用地質学会・地盤工学会・社会地質学会と共同で 6、12 月に液化化シンポジウム（浦安・潮来）
- ・日本地震学会：2011 年秋季大会で特別シンポジウム「地震学の今を問う」を開催、これを

受けた意見集を HP で公開、2012 秋季大会でシンポジウムを開催予定。日本学術会議において地震防災関係 30 学協会で共同声明。地震工学関係の学会との合同報告書を作成予定。

2. 今後の活動方針

- ・ 来年度の連合大会へ向けて

東日本大震災の全貌がわかるようなユニオンセッションを開いてはどうか、との提案があった。例えば海洋の動態（がれき問題）、被災地の復興問題、提言等を含めた広範囲のセッションなど。詳細は理事会でも議論し、次回会議で検討。

- ・ 地球人間圏セッションが中心のシンポジウム（秋に名古屋での開催を検討中）

今年度のユニオンセッション同様、当委員会ほかの共催とし、講師旅費等に当委員会予算を支出することを了承。

3. 中長期的活動に関するフリーデスカッション

- ・ 杉田委員より、「大気海洋・環境セッション」から、「大気水圏科学セッション」へ名称変更の予定（補足：当日夕方の社員総会にて決定）であることの報告があり、環境がセッション名からなくなる事に関して議論。環境は災害と並んで連合の横断軸。1 セクションの問題に留まらず、環境災害対応委員会の役割が重要。社会的なものを含めて、セッションなどの企画を立案していく方針。

- ・ 連合大会での当委員会主催の国際セッションの企画について委員長より打診。各サイエンスセッションや委員会の年予算は、数十万円程度。複数のセッションや委員会、各種研究プロジェクトをうまく調整し、複数の外国人研究者を呼ぶ算段が必要。個別学会での国際シンポ等の情報提供も必要。委員会としての共催、連合ニュースでの発信も可能。真木委員より 2014 年は外国人を呼ぶ予算が確保できる見込があり、国際セッションを計画予定。

- ・ 中村委員より、災害全体・環境全体のリスク評価をどうすすめていくか、長期予測とリスク評価問題に関し、火山学会は 3-10 万年程度での評価を求められた旨、報告があった。原発災害と関係し、放射能汚染の長期予測も必要で IAEA から人を呼んではどうかとの提案があった。

- ・ 連合の執行体制は 6 月 1 日に交代。委員長は残留予定（補足：24 日理事会で決定）。各学協会選出委員の交代がある場合は、連合事務局と委員長へ速やかに連絡すること。

- ・ 各学協会の活動報告をメールで送付。HP での発信も予定。

＜学協会からの活動報告＞

・日本堆積学会（後藤）

2011年12月 日本堆積学会長崎大会にて津波堆積物シンポジウムを実施。

シンポジウムのまとめとして学会誌「堆積学研究」にて特集号を予定。

2012年5月 津波堆積物ワークショップを千葉大学にて開催，翌日に房総半島巡検を実施。定員50名（巡検は20名）に，120名以上の申し込みがあるなど，社会から高い関心。

堆積学会としては，今後も津波堆積物（地震性堆積物も）の理解向上に資する企画を行っていく予定。

・日本気象学会（江守）

1. 学会の「教育と普及委員会」「地球環境問題委員会」共催で，気象学会大会期間中の5月26日（土）午後に公開気象講演会「地球温暖化問題における科学者の社会的役割」を開催。
2. 地球環境問題委員会で地球温暖化問題に関する一般向け書籍の出版を検討中。

・日本雪氷学会（西村）

2012年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は，東北から関東に至る広範囲で甚大な被害を引き起こしたが，その翌日12日午前3時59分にも，長野県北部を震源としたマグニチュード6.6の地震が発生し，長野県栄村では震度6強，また新潟県津南町，十日町市では震度6弱をそれぞれ記録した。ちょうど2010年から11年の冬期は大雪で，当該地域では積雪深が2mを超えており，地震に誘発されて数多くの表層雪崩，全層雪崩，土砂崩壊を伴う雪崩が発生し，道路や建物に多大な被害をもたらした。また，上記の震災に加え，2011年7月27日から30日には新潟・福島豪雨により多くの斜面災害が発生した。これに伴い，雪崩対策施設の被害（予防柵の崩落，予防柵上への土砂堆積など）や樹木の崩落により雪崩発生危険度が一層高まることとなった。こうした背景を踏まえ，9月23日，雪氷学会のメンバーにより，豪雪と地震・豪雨の複合災害発生後の現況の把握と今後の対策に資することとを目的として，当該地域の現地調査が行われた。

・地球電磁気・地球惑星圏学会（小田）

1. 「東日本大震災および福島第一原発事故に関連したSGEPSS会員による発表論文」のリストの充実化（3件追加）。

http://www.sgepss.org/sgepss/shinsai_publication.html

2. Earth, Planets and Space(EPS誌)の「東北地方太平洋沖地震」特集号第1弾

“First Results of the 2011 Off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake”

に引き続き特集号第2弾“The 2011 Tohoku Earthquake”の今年中の出版を目指して作業中。

※ EPS誌は地球電磁気・地球惑星圏学会，日本地震学会，日本火山学会，日本測地学会，日本惑星科学会の5学会の合同企画・運営による欧文学術誌。

<http://www.terrapub.co.jp/journals/EPS/index.html>

・日本地理学会（須貝）

1. 2011年3月11日の東日本大震災直後に，矢ヶ崎典隆理事長(当時)を本部長とする「日本地理学会災害対応本部」を設置し，様々な情報の収集と発信をHP等で実施（2012年3月31日，対応本部解散，通常委員会の地理学会災害対応委員会が対応継続中）。

学会員による現地調査報告を掲載し，とくに，災害直後に撮影された空中写真判読をもとに，青森・岩手・宮城・福島・茨城・千葉県の津波浸水域マップを早い時期から電子化し，HPで自由に閲覧できる形で公開。URLは<http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/20110311/>

2. 東日本大震災地理教育復興支援事業

東日本大震災で甚大な被害を受けた小学校、中学校、および高等学校における地理教育に関する復興支援事業、「東日本大震災地理教育復興支援事業―被災校に地理教材を！―」（協賛学会：日本地理教育学会・地理空間学会のほか、ドイツ、スイス、オーストラリアの地理学会も賛同）を実施。大震災発生以降、会員から支援事業のための賛助金を募り、2011年9月下旬、総額500万円を被災校の地理教育の復興支援のために助成。被災校からの助成申請（6月11日から8月5日まで受け付け）にもとづき、以下の宮城県・岩手県・福島県の小学校、中学校、高等学校、合計45校が助成対象。

	小学校	中学校	高等学校	(学校数) 計
岩手県	7	3	1	11
宮城県	17	9	1	27
福島県	1	2	4	7

3. シンポジウムの開催

- 3.1. 日本地球惑星科学連合地球人間圏セッション主催（日本地理学会共催）「東日本大震災シンポジウム―地球人間圏学の視点―東日本大震災の教訓を生かして南海・東南海地震に備えるために」（2011年10月9日13時より関西大学千里山キャンパス）
- 3.2. 日本地理学会（地理教育専門委員会）主催「災害と子どもたちの教育を考える―東日本大震災被災学校の現在とこれからの地理学・地理教育」（2012年3月4日（日）13:30～16:30：慶應義塾大学三田キャンパス）
- 3.3. 2012年地理学会春季学術大会 地理学会災害対応委員会主催公開シンポジウム「東日本大震災と地理学―ハザードマップを再考する―」（首都大学東京3月28日）
- 3.4. 2012年地球惑星科学連合大会セッション「人間環境と災害リスク」を主催（活断層学会・第四紀学会・地理情報学会・地質学会・火山学会・連合環境災害対応委員会共催）（発表件数30件）。（5月23日9:00～15:15口頭 15:45～ポスターコアタイム）
- 3.5. G空間EXP02012シンポジウム「地理学から提言する新しい国土」を開催。（2012年6月23日（土）10:00～12:00、パシフィコ横浜）
- 3.6. 2012年地理学会秋季学術大会 地理学会災害対応委員会主催公開シンポジウム「いま改めて二つの大震災から学ぶ―阪神・淡路大震災・東日本大震災と地理学・変動地形学―」（開催決定）。

・東北地理学会（村山・黒木）

1. 大会

2011年5月 春季大会（開催場所を変更して開催） 東日本大震災等災害関連発表 16本

2011年10月 秋季大会 東日本大震災等災害関連発表 18本 + シンポジウム

2012年5月 春季大会 東日本大震災等災害関連発表 23本

大震災関連の発表多数あり。人文地理学者による発表が増加傾向。

2. ウェブサイト

調査結果等を含むコンテンツをアップ。

当初から英語による発信を心がけ、海外からも多数のアクセス。

3. 会誌と書籍

季刊地理学の震災特集号を準備中。書籍（英語）を準備中。

・水文・水資源学会（真木）

1. 2011 年総会・研究発表会において「東日本大震災特別セッション：東日本大震災に対応して水文・水資源学会は何をすべきか」を開催（2011 年 8 月 30 日 13:30～15:00, 京大宇治キャンパス 宇治おうばくプラザきはだホール）。

(1) 研究グループ報告（第 1 報）

- 1) 地震によるアースフィルダムの被害諸特性と今後の影響に関する調査（福島大 川越清）
- 2) 東日本大震災対応地下水調査研究（広島大 開発一郎）
- 3) 水循環・水利用プロセスに伴う放射性物質移動の追跡と影響評価（筑波大 恩田裕一教授／発表：京都大 山敷庸亮）

(2) 特別講演

放射性物質の流域内循環の基礎知識と調査法（筑波大 恩田裕一）

2. JpGU でのセッション共催

(1) セッション：「水循環・水環境」

水文関係 4 学会（水文・水資源学会，水文科学会，地球化学会，地下水学会）共催

(2) セッション：「都市における極端気象」

災害環境対応委員会，水文・水資源学会，日本地理学会，土木学会，自然災害情報学会共催

(3) セッション：「想定しにくい外力に対する水循環応答と生態系の緩和効果の推定（水循環と生態系効果の予測）」水文・水資源学会，環境災害対応委員会共催

3. シンポジウム等の後援

(1) 「第 6 回土砂災害に関するシンポジウム」（土木学会関西支部，2012 年 8 月 23 日，24 日（金））後援

(2) 「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」（地下水学会シンポジウム，2012 年 5 月 26 日），

(3) 第 3 回国際会議「変動する環境下における森林と水の関係」（九州大学，2012 年 9 月 17 日～20 日）

(4) 「安全工学シンポジウム 2012」（日本学術会議総合工学委員会，2012 年 7 月 5～6 日）

(5) 「日本大震災 あれから 1 年そしてこれから～巨大災害と社会の安全～」（土木学会，2012 年 3 月 5-6 日）

・地理情報システム学会（目代）

防災 GIS 分科会が中心となり，時空間 GIS 分科会，自治体分科会と協力して，以下の各種の支援活動を実施。

- (1) 情報共有 Web サイトの作成と他活動グループへの提供。
- (2) 被災者データ，被災建物データ管理（具体的には罹災証明発行支援，倒壊家屋撤去申請支援など）に活きるソフトウェアの開発，提供。
- (3) 各機関から提供される被害情報と基盤情報の重ね合わせ分析マップの作成と公開（津波被害地域の町丁目判定マップなど）。

その成果については，2012 年 3 月 27 日に東日本大震災支援活動報告会として広く研究者，関係者を集めて報告。

情報は，以下のサイトで公開し，随時更新を実施。

<http://rarmis.jp/dpgissig/>

・日本地熱学会（宮越）

1. 東日本大震災に関する活動としては、エネルギーの安定供給への貢献という観点から、地熱エネルギーの利用促進に関する提言を発表（HP にて公開）。地熱エネルギーに関する問い合わせが増加しており、関連する Q&A をホームページで公開。
2. 平成 23 年度学術講演会（鹿児島県指宿市）において、特別企画「再生可能エネルギーとしての地熱エネルギーの将来展望」を開催（2011 年 11 月 9 日）。
3. 平成 23 年度学術講演会（鹿児島県指宿市）において、タウンフォーラム「地熱開発と温泉の共生」を開催（2011 年 11 月 10 日）。

・日本地下水学会（林）

1. 2011 年度の活動報告

(1) 研究活動支援

東日本大震災対応地下水調査研究（代表：広島大学 開発一郎）

水文・水資源学会の研究助成活動の支援として実施。成果の一部を 2011 年度秋季講演会（於：広島大学）にて報告

(2) シンポジウム「東日本大震災—今我々に求められる技術と研究—」の開催

2011 年 5 月 28 日、つくば国際会議場、共催：日本水文科学会

講演

- ・2011 年東日本大震災における地盤環境問題（京都大学大学院 勝見 武）
- ・地下水で東海・東南海・南海地震を予測する（独立行政法人産業技術総合研究所 小泉尚嗣）

(3) JPGU での活動

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催）

2. 2012 年度の活動予定

(1) シンポジウム「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」の開催

2012 年 5 月 26 日，東京大学柏キャンパス，環境棟 FS ホール

共催：地盤工学会，日本水文科学会，後援：水文・水資源学会

1) 講演

- ・水供給システムの安全・安心確保（国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課長 山本健一）
- ・東日本大震災津波の被災地における水の確保について（報告）（岩手県副知事 上野善晴）
- ・名古屋市における災害時の生活用水としての地下水の活用について（名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課水質地盤係長 竹本和弘）
- ・東日本大震災における津波被害を受けた水源地下水の調査（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 中川 啓）

2) パネルディスカッション

コーディネーター：谷口真人（総合地球学研究所 研究部教授）

パネリスト：山本健一，上野善晴，竹本和弘，中川 啓

(2) JPGU でのセッション共催

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催）

・日本水文科学会（林）

1. 2011 年度の活動報告

(1) 研究活動支援

災害時緊急調査補助金の助成

テーマ：福島県阿武隈地域の水系中における放射性核種の分布と挙動の実態調査

代表：安原正也（独立行政法人産業技術総合研究所）

ワーキンググループ活動への助成

テーマ：硝酸汚染問題に関するワーキンググループ

代表：小野寺真一氏（広島大学）

(2) シンポジウム「東日本大震災－今我々に求められる技術と研究－」の開催

2011 年 5 月 28 日，つくば国際会議場，共催：日本地下水学会

1) 講演

・2011 年東日本大震災における地盤環境問題（京都大学大学院 勝見 武）

・地下水で東海・東南海・南海地震を予測する（独立行政法人産業技術総合研究所 小泉尚嗣）

(3) JPGU での活動

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本地下水学会，日本地球化学会との共催），セッション：「同位体水文学 2011」，セッション：「都市域の地下水・環境地質」，セッション：「流域の水文地質と物質循環」

2. 2012 年度の活動予定

(1) シンポジウム「震災時の非常用水源としての地下水利用の在り方」の開催

2012 年 5 月 26 日，東京大学柏キャンパス，環境棟 FS ホール

共催：地盤工学会，日本地下水学会，後援：水文・水資源学会

1) 講演

・水供給システムの安全・安心確保（国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源政策課長 山本健一）

・東日本大震災津波の被災地における水の確保について（報告）（岩手県副知事 上野善晴）

・名古屋市における災害時の生活用水としての地下水の活用について（名古屋市環境局地域環境対策部地域環境対策課水質地盤係長 竹本和弘）

・東日本大震災における津波被害を受けた水源地下水の調査（長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 中川 啓）

2) パネルディスカッション

コーディネーター：谷口真人（総合地球学研究所 研究部教授）

パネリスト：山本健一，上野善晴，竹本和弘，中川 啓

(2) JPGU でのセッション共催

セッション：「水循環・水環境」（水文・水資源学会，日本水文科学会，日本地球化学会との共催），セッション：「同位体水文学 2012」，セッション：「都市域の地下水・環境地質」，セッション：「水文地質と物質循環」，セッション：「陸域・海洋相互作用：流域」

・日本活断層学会（吾妻）

2011年6月に「2011年東北地方太平洋沖地震に関連した地震活動・地表地震断層の評価に関する検討専門委員会」を設置。2011年11月の秋季大会において、シンポジウム「2011年東北地方太平洋沖地震に伴う内陸活断層の挙動と地震活動・地殻変動」を開催。2012年日本地球惑星科学連合大会において「プレート境界型巨大地震に誘発される内陸活断層地震」セッション（S-SS36）を開催（口頭5件、ポスター9件）。

・日本第四紀学会（吾妻）

2011年7月に東京大学小柴ホールで緊急シンポジウム「巨大地震を探る－第四紀学からのアプローチ」を開催。講演者は島崎邦彦、佐竹健治（以上、招待講演）、澤井祐紀、鈴木毅彦、遠田晋次・吾妻 崇・藤原 治）。来場者約150名。

・日本応用地質学会（中筋）

千木良雅弘会長を委員長とする東日本大震災特別委員会が2011年6月に発足。活動方針は、委員自ら得た情報や会員から寄せられた情報を、学会誌・学会HP・掲示板などを通して随時配信すること。

今後の活動計画として、2012年7月に全地連と共催で、シンポジウム「地盤から見た東日本大震災」を開催するほか、11月の研究発表会や「応用地質」2013年2月号で特集を組む予定。

・日本火山学会（中村）

1. 2011年10月1日に旭川市教育委員会・日本火山学会主催で火山防災シンポジウム「北海道の火山とともに」を旭川市大雪クリスタルホール国際会議場大会議室で開催。2000年有珠山噴火からの教訓：北海道の火山との共生、歴史に見る火山災害の基調講演後に、北海道の火山と災害の教訓、十勝岳の火山防災、火山と共生するための防災についてのパネルディスカッションを実施。参加者は地元市民や学会員など約80名。予稿集は学会HPに掲載。

http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/bousai_symposium_abst.html

2. 2012年5月21日に日本火山学会火山防災委員会を日本地球惑星科学連合2012年大会中に開催。我が国における火山防災の取組と火山防災エキスパート制度について、東日本大震災の時の官邸・政府の対応から学ぶ想定外大規模噴火災害への備え、についての講演後に質疑応答や討論を実施。出席者は約50名。

・日本国際地図学会（宇根）

1) 2011年度定期大会（2011年8月8日～10日、国土舘大学世田谷キャンパス）のテーマを「「地図」が伝える災害の真実」とし、特別セッション「命を守る「地図」とは？」、シンポジウム1「震災とジオメディア」、シンポジウム2「災害と地図」、巡検「浦安市の液状化被害地跡を歩く」を実施。

2) 学会HPに「東北地方太平洋沖地震に関する情報」のページ（関係機関、特別会員企業の震災関連サイトへのリンク集）を開設。

平成 23 年度 男女共同参画委員会	
担当者名	富樫茂子、坂野井 健、小口千明
活動報告	
女性と男性が、共に個性と能力を発揮できる環境作りとネットワーク作りを行うことを通じて、より良い研究環境とワークライフバランスを整えることを目指している。2011 年度も引き続き、以下の活動を行った。	
1) JpGU 加盟の各学協会の男女共同参画の状況や取組み（たとえば、学会時保育室の設置や若手・女性支援のアウトリーチ活動、広報活動手段）に関する情報交換	
2) キャリア支援委員会との連携による、「JpGU 全会員を対象にした職種・年齢・性別に対する人数分布調査アンケート」の実施と解析を行い、社会問題となっているポストク問題を考えるための基礎資料の提示	
3) 男女共同参画学協会連絡会への参加	
・運営委員会(6 回開催)に参加し、第 2 回大規模アンケート統計調査結果や提言などへの意見交換	
・シンポジウム(10/31 開催)にて、活動報告とポスター参加	
※ 今後も、上記の事業を推進する必要性が高い。	
活動時期と内容	
2011 年 5 月 24 日	・男女共同参画委員会(5/24) ・学会会期中には保育室を設置(5/20～25)
2011 年 5 月～ 2012 年 5 月	「JpGU 全会員を対象にした職種・年齢・性別に対する人数分布調査アンケート」（担当:坂野井和代、小口千明） ・第1回アンケートを 2011 年連合大会開催時に、キャリア支援委員会と共同で実施・解析し、その結果を理事会に報告し、メールニュース、学会 HP に掲載。 http://www2.jpгу.org/career/answer.pdf http://www2.jpгу.org/career/Jpgu_ca_Fig.htm（詳細） ・第 2 回アンケートを 2012 年連合大会開催時に実施した。 速報結果アンケートページ。 http://www.smaster.jp/Sheet.aspx?SheetID=56696

2011 年 10 月 31 日	・男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(@筑波大)への参加(活動報告とポスター展示) - このほか、運営委員会(第9期運営委員会:第 2～5 回 2011 3/31, 7/2, 8/29, 10/11, 第10期運営委員会:第1～2 回 2012.1/12, 3/22)に参加
2012 年 5 月 23 日	・男女共同参画委員会(5/23) ・学会会期中には保育室を設置(5/20～25)
2012 年 5 月 24 日	男女共同参画委員会シンポジウム「男性の育児休業・育児参加とワークライフバランス」実施 (17:30-19:30) (担当:坂野井 健)

2012 年度日本地球惑星科学連合男女共同参画委員会 報告

日時 5 月 23 日(水) 12 時 30 分～13 時 30 分

場所 幕張メッセ国際会議場 202 号室

議題および配付資料

- | | |
|--------------------|---------|
| (1)2011 年度委員会の活動報告 | 資料1 |
| (2)学協会連絡会活動報告 | 資料1 |
| (3)各学会からの報告 | 資料1 |
| (4)次期委員長・副委員長選出 | |
| (5)次期の課題と運営体制について | 資料2、資料3 |
| (6)その他 | |

※ 次ページ以降の報告では、当日配布した資料 1～3 にその後の修正も反映させています。

※ 報告文内に記載の参考資料 1～5 につきましては、別添で添付しました。

(1) 2011 年度委員会の活動報告

2011.05.24 男女共同参画委員会(学会保育室設置)

2011 5 月から 2012 5 月

「JpGU 全会員を対象にした職種・年齢・性別に対する人数分布調査アンケート」

(担当:坂野井和代、小口千明)

- ・第1回アンケートを 2011 年連合大会開催時に、キャリア支援委員会と共同で実施・解析し、その結果を理事会に報告し、メールニュース、学会 HP に掲載。

<http://www2.jpгу.org/career/answer.pdf> (参考資料1-1)

http://www2.jpгу.org/career/Jpgu_ca_Fig.htm (詳細)

- ・第 2 回アンケートを 2012 年連合大会開催時に実施した。速報結果(参考資料1-2)

アンケートページ <http://www.smaster.jp/Sheet.aspx?SheetID=56696>

2011.10.31 学協会連絡会シンポジウム 活動報告 ポスター展示 (参考資料2)

2012.5.23 男女共同参画委員会 (学会保育室設置)

2012.5.24 17:30-19:30 男女共同参画委員会シンポジウム「男性の育児休業・育児参加とワークライフバランス」実施 (担当:坂野井健) (参考資料 3)

2011 年度決算

予算

決算(2月)

 賛助金男女共同参
 絡会加盟
 加盟分担金(規模

に応じた最小限)	10000	支払賛助金	12000
ポスター展示参加費	2000	雑費-1	3000
委員会旅費	42000	旅費交通費	21980
アンケート関連費	46000	雑費-2	0
計	100000		36980

(2) 学協会連絡会の活動

運営委員会、シンポジウムポスター展示、調査等で参加

- ・第9期運営委員会:第 2～5 回 2011, 3.31、2011.7.2、2011.8.29、2011.10.11、第 10 期運営委員会:第1～2 回 2012.1.12、2012.3.22 に参加

- ・現在 2012 第3回大規模アンケートに向けた準備が進んでいる。

http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2011/poster_omote.jpg (参考資料 4)

http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2011/poster_ura.jpg

- ・シンポジウム:開催日 2011.10.31 @筑波大学、ポスター展示で参加

JpGU からは、小口千明、坂野井健、鎌谷紀子、若狭幸が参加。若手、女性リーダーの育成等分科会等に参加した。

- ・2011 年学協会連絡会比率調査に応じた。結果は以下のとおり(展示ポスターにも記載)

<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/enquete.html>

- ・下記の連絡会としての要望書は、内容に同意できない部分が有るために、賛同しなかった。要

望書は賛同学会を明記の上 提出された。 (参考資料5)

http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/request/renrakukai_youbou_120322.pdf

(3)各学会からの報告

○日本海洋学会

2011 年秋季と2012 年春季の大会では、運営事務局が民間の託児所を数カ所見つけ、必要とされる参加者は事務局に連絡するようメーリングリストでアナウンスした。予算としては経費の半額を補助する予定で準備した。利用者は2011 年秋季は1 名、2012 年春季は無しであった。

○日本地質学会

従来の2011 年9月の男女共同参画委員会の会合に加え、同年11 月12-13 日に南相馬巡検を開催した。東日本大震災の被害や、除染実験の学習会を行った。南相馬巡検に関しては、日本地質学会 News, Vol.15, No.2, 17-18.に詳細を掲載

<http://www.geosociety.jp/engineer/content0009.html>

○地震学会

学会内常設の男女共同参画推進委員会が、広く学会内から提案や問題点等を聞くための男女共同参画推進委員会メールアドレスの運営、および、学会外部機関に対する男女共同参画にかかわる窓口としての任務を果たしている。

http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?cat_id=204

○日本雪氷学会

2011 年9 月の長岡での大会において託児室を提供(紹介)、1 家族の利用があった。大会実行員が事前に託児施設を調べ、2施設を紹介した。利用者には後日、実際に支払った託児施設利用料の半額(4,800 円)を助成した。

<http://www.seppyvo.org/>

○気象学会

年に2回開催される春季・秋季大会期間中に、例年、参加者への保育支援を行っています。2011 年春季は保育施設の斡旋と保育料の援助(1 名*2 日利用、料金の50%補助)。2011 年秋季も1 件(子供2 名3 日の利用)の斡旋と利用料補助を実施。大会ホームページ参照

<http://msj.visitors.jp/>

○地球電磁気・地球惑星圏学会

- ・例年の学協会連絡会主催の夏のイベントである「女子中高生夏の学校」を学会として共催し、南極観測隊とのTV 中継を行った。

- ・昨年10 月の秋学会で例年通り託児室を実施。神戸、六甲道キッズルームを利用したサービスを会員に提供。1家族1名の申し込み、4 日間フルに利用された。学会から補助金

を出している。

・男女共同参画学協会連絡会には引き続き参加。3月に提出された提言には非賛同。

・ <http://www.sgepss.org/sgepss/danjo.html>

○日本地理学会

昨年はじめて、保育室を開室した。

利用者数 2日間で6名、利用時間 1日目:9:00～16:30、2日目 9:30～13:40

費用(個人負担分):1時間あたり1,000円。利用者により、時間は様々。

費用(学会補助分):77,000円

○惑星科学会

2011年10月23日(日)-25日(火)に相模女子大で行われた、2011年日本惑星科学会秋季講演会(LOC: JAXA/ISAS)において、乳幼児を同伴し最寄りの保育施設利用を希望する参加者に対し学会より一部費用を負担する旨、周知と募集をしたところ、1件の利用があった。

○特になし

堆積学会・鉱物科学会・日本陸水学会・地理情報システム学会・日本地形学連合

(4)次期委員長・副委員長選出

委員長に小口千明(埼玉大)、副委員長に坂野井健(東北大)を推薦、委員会時に承認された。

委員会後に、小川佳子(会津大)に、副委員長を追加推薦の打診をし、本人より了承を得た。

(5) 次期の課題と運営体制について

主な議論

- ・ 情報交換については、連合の委員会HPを活用して、会員への情報提供を強化する。
委員へのML情報に関しては、委員向けと会員向けの情報を区別して提供する。
- ・ 来年のJpGUでの委員会のシンポやその他の取り組みについては、引き続き意見を募り検討する。
- ・ JpGUの「会員属性アンケート」を継続的に取り組む。回答を増やす工夫が必要。
- ・ 学協会が5年に一度実施している大規模調査が今年実施されるので、多くの回答を得るように宣伝し、結果を活用する。
- ・ 委員については追加して活動の多様性を確保したい。候補の推薦をしていただきたい。

1. 2012年度の活動方針

1)各学会の男女共同参画の活動状況の情報交換による活動の推進

a) 学会HP(委員会サイトで運営可)およびメール等を通じた情報交換。

ひきつづき、方法の検討も含め今後充実する。

b) 地球惑星科学連合大会時のシンポジウム開催について。

開催する/しないも含めて、意見を仰ぎたい。

開催する場合のシンポジウムテーマの例:

- ・研究者のワークライフバランス(特に男性研究者の育児休暇)に関して
 - ・介護の実態
 - ・ポストク問題(キャリア支援との共催も視野)
- c) その他 必要に応じて追加する。
- 2) 男女共同参画学協会連絡会への加盟による他分野との連携
- ・引き続き加盟により、全国の活動状況の情報を交換し、連携する。
- その際の情報公開の基準は？
- ・そのため、分担金を拠出し、運営委員会(東京年4回予定の)に出席する。
(他学会の動向を知りたい方は、ぜひこの運営委員会にご参加願いたい)
 - ・2012年のシンポジウムは10月の予定。
 - ・当委員会としては若手問題を中心にWGに参加する。
- 3) ポストク問題をはじめとして人材の育成や活用の観点からも男女共同参画課題の検討。
- このためにキャリア支援委員会とも連携する。
- ・2010年度に検討を開始した「JpGU 全会員を対象にした職種・年齢・性別に対する
人数分布調査アンケート」の2回目の結果の速報が公開された(坂野井和代氏の貢
献大)。もう数年は推移を見たい。
 - ・併せてパーマネントポストの空き状況調査の可能性を探る。
 - ・ご協力いただける方にはぜひお願いしたい。
- 4) 今後の委員会のありかた・体制の検討
- ・解決すべき課題の具体化
 - ・新たな課題(介護問題等の情報交換 国の施策への対応課題 男女共同参画計画)
 - ・委員会のあり方、キャリア支援委員会との関係も含めて来年度以降の体制を検討する。
- ※その他意見・委員会で参考になる冊子を配布・回覧

2. 2012 年度予算(理事会決定済)

明細	科目	小科目	決定予算
男女共同参画学協会分担金	支払賛助金		10,000
委員会シンポジウム経費	旅費・交通費	交通費	31,000
男女共同参画学協会参加費(資料・ポスター展示料)	支払賛助金		5,000
アンケート関連経費	委託費	その他	10,000
委員会旅費	旅費・交通費	交通費	44,000
			100,000

3. 委員会の体制について

1) 現状の定款および委員会規約の確認:

委員についてはこれまでは学協会の情報提供に基づいて運営委員会が選任していたが、法人化後の定款では、「推薦等に基づいて、正会員の中から理事会が選出し、会長が委嘱する。」となっており、推薦の母体が特定されておらず、委員会の性格に応じて推薦の対象を拡げることも可能。

2) 委員の推薦:

本委員会は各学協会の活動の情報交換により、それぞれの学協会の活動を後押しする役割が大きいと考えられるので、引き続き、各学協会からの推薦に基づく委員を中心に構成し、必要に応じて、その他の推薦による委員を推薦する。また、現在委員を推薦している学協会はもちろんのこと、これまで推薦していない学協会からも委員の推薦を呼びかける。

3) 委員の任期: 現委員の再任および新規の委員の任期は 2013 年 5 月の委員会までの 2 年とすることで理事会に諮る。委員名簿(資料 3)を参照。

4) 委員長・副委員長: 任期は 1 年。

5) 委員会の開催

- ・地球惑星科学連合大会の時に委員会を開催する。
- ・他については、地球惑星科学連合の厳しい財政状況を鑑み、旅費の確保が困難であるので、当面はメールベースを基本とするが、ネットミーティングなど新たな方法をさらに検討する。

6) オブザーバーの導入

ポストドクなどで、委員になるのは躊躇があるが、ネットミーティング等への参加など多様な形で活動に加わっていただける方については、オブザーバーとして活動していただく。規約変更は不要。

男女共同参画委員会名簿 2012/6/10 現在

氏名	所属	学会
富樫 茂子	産業技術総合研究所	男女共同参画委員会委員長(日本鉱物科学会)
小口 千明	埼玉大学	男女共同参画委員会副委員長(日本地理学会・日本地形学連合)
坂野井 健	東北大学	男女共同参画委員会副委員長(地球電磁気・地球惑星圏学会)
坂野井 和代	駒澤大学	元男女共同参画委員会副委員長(地球電磁気・地球惑星圏学会)
吉田武義	東北大学	元連合総務委員長
阿部 隆	日本女子大学	東北地理学会
藤縄 明彦	茨城大学	日本火山学会
清野 直子	気象研究所	日本気象学会
田島 文子	ミュンヘン大学	日本地震学会
山野 誠	東京大学	日本地震学会
薮崎志穂	立正大学	日本水文科学会 日本地下水学会
天野敦子	産業技術総合研究所	日本堆積学会
天川 裕史 (未定)	東京大学	日本地球化学会
佐々木 緑	広島修道大学	地理情報システム学会
楊 宗興	東京農工大学	日本陸水学会
堀 利栄	愛媛大学	日本地質学会
川合義美	海洋研究開発機構	日本海洋学会
渡邊眞紀子	東京工業大学	日本第四紀学会
小川 佳子	会津大学	日本惑星科学会
村山祐司	筑波大学	東京地学協会
紺屋 恵子	海洋研究開発機構	日本雪氷学会
新井真由美	日本科学未来館	生態工学会
前田佐和子	京都女子大学	男女共同参画委員会 元委員長(地球電磁気・地球惑星圏学会)
若狭 幸	筑波大学	日本地形学連合
宋 苑瑞	東京大学 他	日本地理学会
土屋範芳	東北大	鉱物科学会
鎌谷 紀子	気象大学校	(日本地震学会)

平成 23 年度 (情報システム委員会)	
担当者名	今西 和俊
活動報告	
例年通り、JTBCOM 社提供の会員管理システム、大会システムについて円滑な運用を目指して、管理、補修を行った。	
また、連合大会中のインターネット環境について、会場にて構築・管理を行った。	
2012年大会システムについては、	
3分口頭発表の導入により、投稿画面、プログラム編成システム、	
学生発表賞の4セクション実施に伴い、投稿画面、データダウンロード機能付与、及び上記に関連する文言修正などを補修、合計	
65万円（税別）を行った。	
活動時期と内容	
8月中～下旬	セッション提案システム運用テスト、検収
9月下旬～10月上旬	セッション管理システム運用テスト、検収
12月上旬	プログラム編成会議参加、投稿、プログラム編成方針確認参加・投稿システム運用テスト、検収
2月上旬	プログラム編成システム運用テスト、検収
5月大会期間	前日、インターネット環境構築（メッセ担当者立会い） 期間中、不具合等対応 委員会開催

【 委員会名簿 】

篠原 育	宇宙航空研究開発機構	(委員長)
今西 和俊	産業技術総合研究所	(副委員長・前委員長)
西村光史	東洋大学	(副委員長・次期委員長)
古村 孝志	東京大学 (前担当理事)	
鍵 裕之	東京大学	
高木 哲一	産業技術総合研究所	
清水 久芳	東京大学地震研究所	
中山 大地	首都大学東京	
坂口 有人	海洋研究開発機構	
西田 究	東京大学地震研究所	
柳澤 教雄	産業技術総合研究所	
前野 深	東京大学地震研究所	
熊原 康博	群馬大学教育学部	
金田平太郎	千葉大学	
財城真寿美	成蹊大学	
三河内 岳	東京大学	
小寺 浩二	法政大学	
宮越 昭暢	産業技術総合研究所	
濱田 浩美	千葉大学	
齋藤 尚子	東京大学気候システム研究センター	

平成 23 年度 (大会運営委員会)委員会 プログラム局・情報局プログラム編成会議	
担当者名	浜野洋三
活動報告	
別紙参照	
・ 2012 年大会日程表	
・ // 報告	
・ // 来場者数	
・ // 会場アンケート	
活動時期と内容	
	別紙 大会日程参照

2012 年連合大会 総括

- ・会期：2012 年 5 月 20 日(日)～25 日(金) 6 日間
- ・会場：千葉幕張メッセ国際会議場
- ・主催：日本地球惑星科学連合
- ・後援：43 団体
- ・協賛：日本サンゴ礁学会，日本大気電気学会，日本高圧力学会，日本天文学会

■セッション関係

- ・開催セッション数：177 (2011 年 174, 2010 年 167, 2009 年 134)

U: ユニオンセッション	7 (*2)
O: パブリック	4 (*0)
P: 宇宙惑星科学	26 (*13)
A: 大気海洋・環境科学	22 (*5)
H: 地球人間圏科学	20 (*8)
S: 固体地球科学	60 (*6)
B: 地球生命科学	10 (*2)
G: 教育アウトリーチ	5 (*0)
M: 学際・広領域	23 (*6)

※(*) 国際セッション数：42 (2011 年 41, 2010 年 32, 2009 年 9)

- ・発表論文数：3876 件 (2011 年 4044 件, 2010 年 3686 件, 2009 年 3088 件)
- 口頭発表 1975 件 (2011 年 2354 件, 2010 年 2090 件, 2009 年 1732 件)
- ポスター 1901 件 (2011 年 1690 件, 2010 年 1596 件, 2009 年 1356 件)

■参加者数

参加者数：7318 名 (2011 年 5809 名, 2010 年 5746 名, 2009 年 4807 名)

- ・事前参加登録者数：2696 名
 - 全日程 2233 1 日券 463
 - 一般 1852, 小中高教員 30, 大学院生 763, シニア 17, 学部生 33, 高校生 1
- ・当日参加登録者数：2475 名
 - 全日程 1088 1 日券 1387
 - 一般 1482, 小中高教員 13, 大学院生 454, シニア 78, 学部生 444, 高校生 4
- ・アウトリーチプログラム参加者：1349 名
 - 金環イベント一般参加 849*, 一般公開参加 244, 発表高校生 202, 引率教員 54
 - *金環イベント参加者全体 1500 名 (眼鏡を作ろう 1300, 日食を見よう 200)
- ・プレス：127 名, 会合参加：89 名
- ・出展関係者：582 名

■出展関係

- ・団体展示：43 ブース (2011 年 44, 2010 年 48, 2009 年 43)
- ・大学インフォメーションパネル：13 大学 (2011 年 12, 2010 年 10, 2009 年 5)
- ・書籍出版(関連商品)：29 (2011 年 28, 2010 年 26, 2009 年 28)
- ・学協会エリア：個別デスク 10 (2011 年 10, 2010 年 9, 2009 年 9)
- ・パンフレットデスク展示：8 (2011 年 11, 2010 年 9, 2009 年 11)

■その他

- ・会期中開催会合数：94 (学協会総会等関連：37, 連合関連：26, 一般：31)
- ・アルバイト・地元ボランティア：のべ 263 名

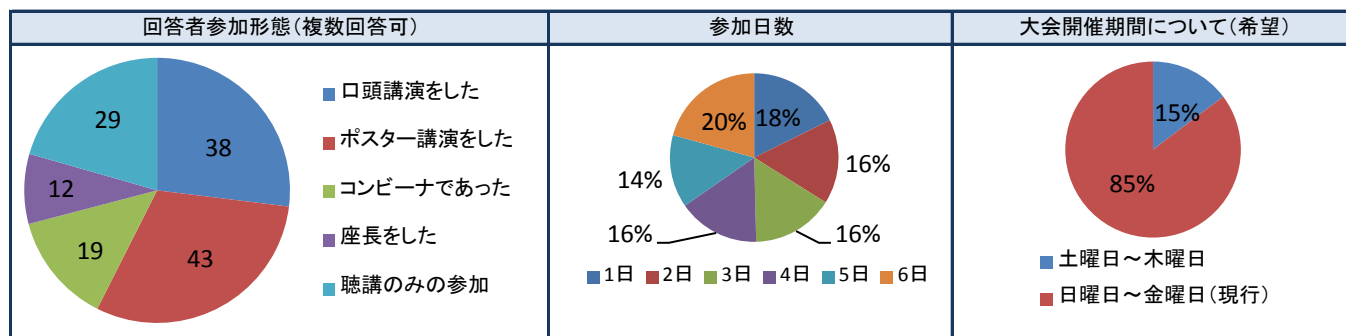
2012年大会入場者数

事前当日	会員種別	登録区分	身分	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	合計	前年data
事前	会員	一日	一般	1	80	61	32	42	26	23	265	295
事前	会員	一日	小中高教員	1	10	1		1	1		14	17
事前	会員	一日	大学院生		25	16	38	18	10	11	118	120
事前	会員	一日	学部生		1						1	0
事前	会員	全日	一般	14	722	347	174	147	51	12	1467	1581
事前	会員	全日	小中高教員	2	12			1			15	19
事前	会員	全日	大学院生	10	312	124	71	58	37	9	621	601
事前	会員	全日	シニア		9	3	1	2	2		17	
事前	会員	全日	学部生		8	7	2	2	2	1	22	
事前	会員	全日	高校生以下		1						1	
事前	非会員	一日	一般		15	11	11	5	3	8	53	56
事前	非会員	一日	小中高教員		1						1	1
事前	非会員	一日	大学院生		3		2	1	4	1	11	24
事前	非会員	全日	一般	1	24	15	10	7	8	2	67	72
事前	非会員	全日	大学院生		6	3	2	1	1		13	17
事前	非会員	全日	学部生		7	2		1			10	
事前登録カウンター来場				29	1236	590	343	286	145	67	2696	2803
当日	会員	一日	一般		120	94	82	86	76	59	517	443
当日	会員	一日	小中高教員	1	3	1	1			2	8	15
当日	会員	一日	大学院生		30	31	46	34	30	26	197	192
当日	会員	一日	シニア		1	1	1	1		2	6	
当日	会員	一日	学部生		2	3	1	2	4	2	14	
当日	会員	全日	一般	7	327	194	91	75	27		721	592
当日	会員	全日	小中高教員		3	1					4	5
当日	会員	全日	大学院生	3	85	63	31	24	12		218	200
当日	会員	全日	シニア	1	5	5	2	4			17	
当日	会員	全日	学部生	1	8	5	2	2	1		19	
当日	非会員	一日	一般		44	32	18	30	16	12	152	95
当日	非会員	一日	小中高教員		1						1	2
当日	非会員	一日	大学院生		3	4		4	8	3	22	10
当日	非会員	一日	学部生					1			1	
当日	非会員	全日	一般		37	24	20	6	2		89	77
当日	非会員	全日	大学院生		7	3	3	1	3		17	9
当日	非会員	全日	シニア		1	1					2	
当日	非会員	全日	学部生		1						1	
当日登録カウンター来場				13	678	462	298	270	179	106	2006	1640
登録カウンター来場				42	1914	1052	641	556	324	173	4702	4443
当日	非会員	総合案内	一般		243		1	2			246	311
当日	非会員	総合案内	小中高教員		54						54	
当日	非会員	総合案内	大学院生		1						1	
当日	非会員	総合案内	シニア		13	6	11	13	5	5	53	89
当日	非会員	総合案内	学部生		108	75	81	59	63	23	409	527
当日	非会員	総合案内	高校生以下		202			3	1		206	225
当日	非会員	総合案内	金環イベント		849	0					849	
当日	非会員	総合案内	プレス		39	20	19	28	9	12	127	130
当日	非会員	総合案内	会合		7	15	13	19	31	4	89	84
当日	非会員	総合案内	出展関係		254	101	66	58	42	61	582	
総合案内来場				0	1770	217	191	182	151	105	2616	1366
来場者合計				42	3684	1269	832	738	475	278	7318	5809
パブリックセッション参加者					1349	0	一般(同伴者等)					
20日	高校生発表	高校生			202	←内部参加合計1300名 ←内部参加合計200名						
		小中高教員			48							
	ジオパーク その他パブリック企 画 (一般参加者)	一般			163							
		一般			80							
		小中高教員			6							
20,21日	金環イベント (一般参加者)	大学院生			1							
眼鏡つくろ 日食みよう			849									

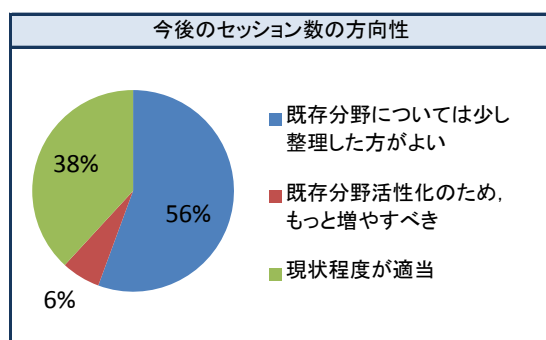
大会参加者アンケート 回答数401

平成24年度第3回理事会資料

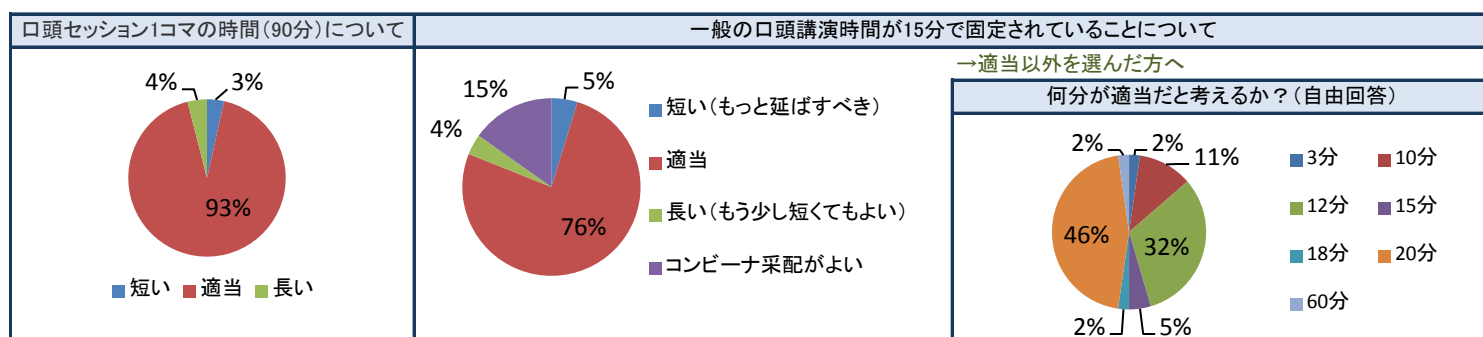
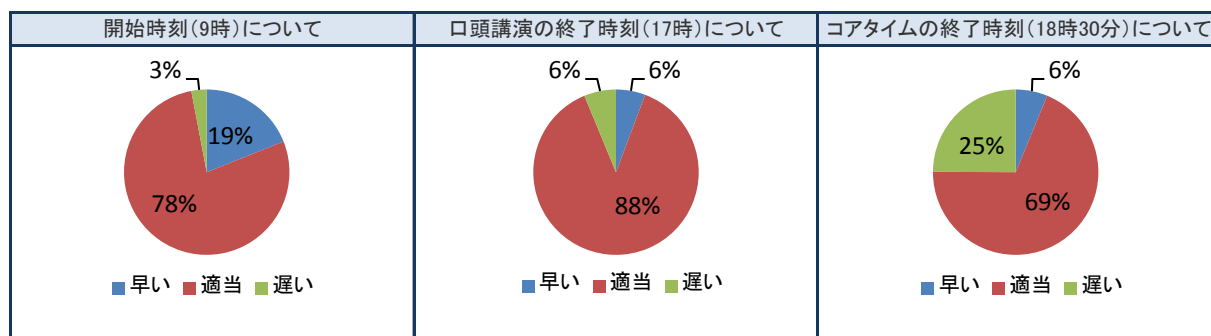
■参加形態・日程について



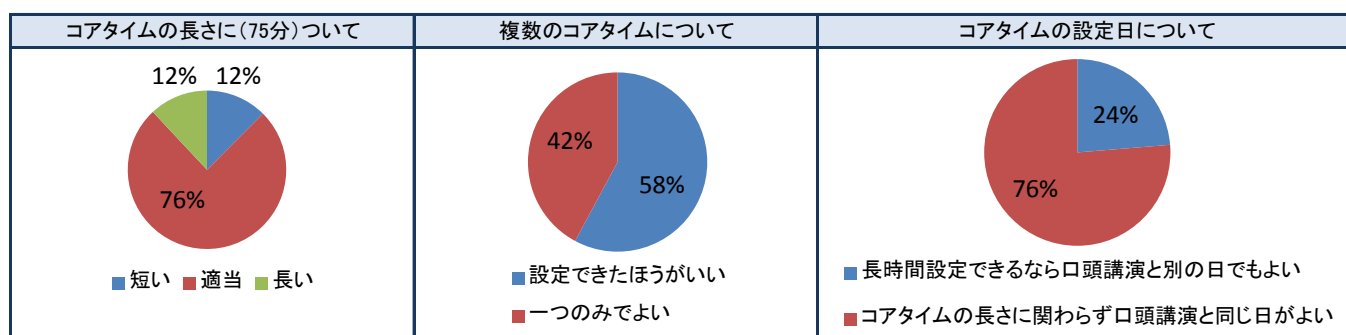
■開催セッション数について

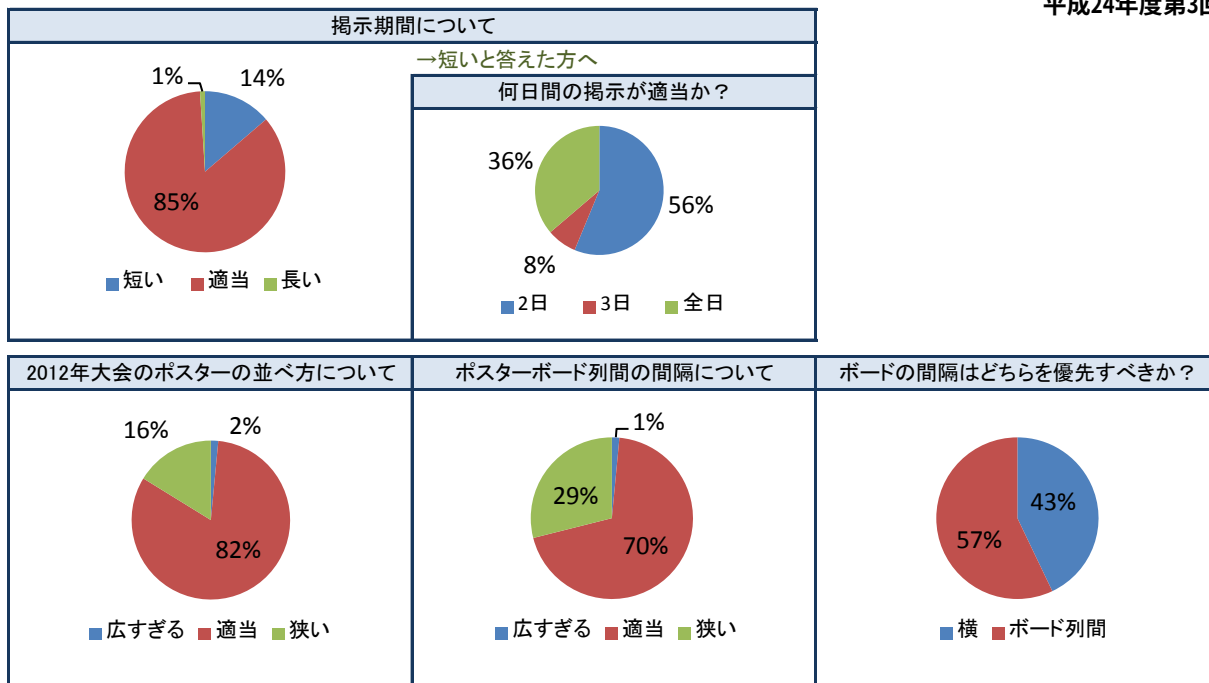


■スケジュールについて

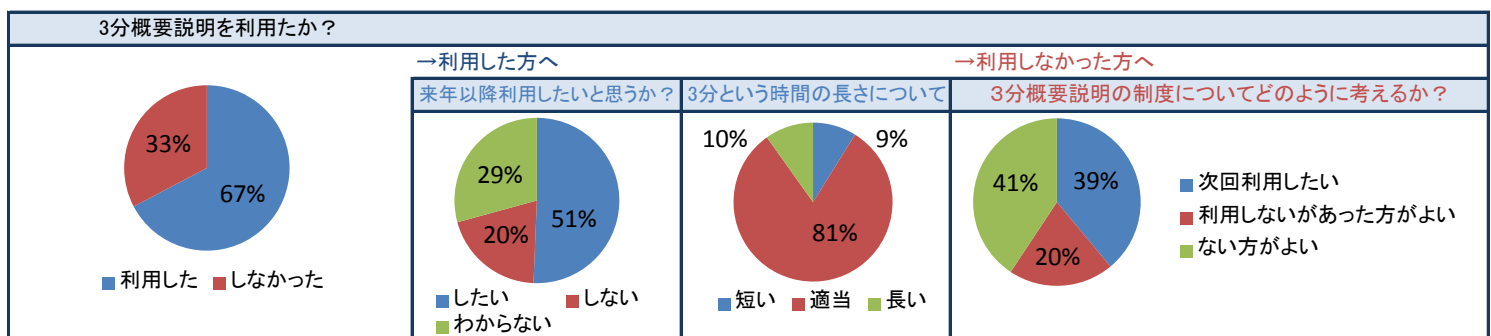


■ポスター講演について

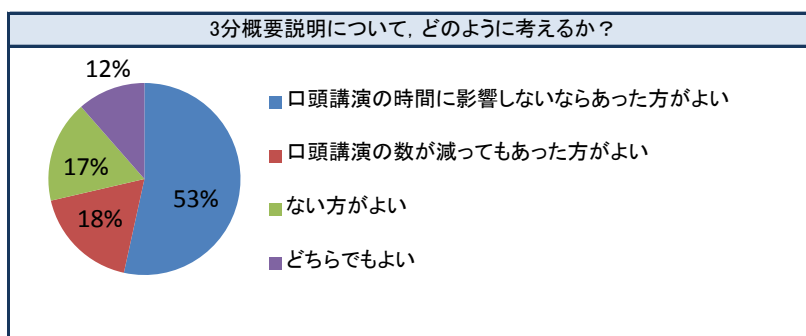




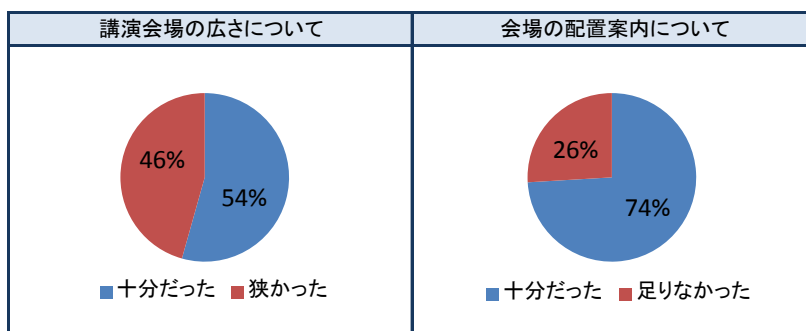
※ポスター講演をした方へ



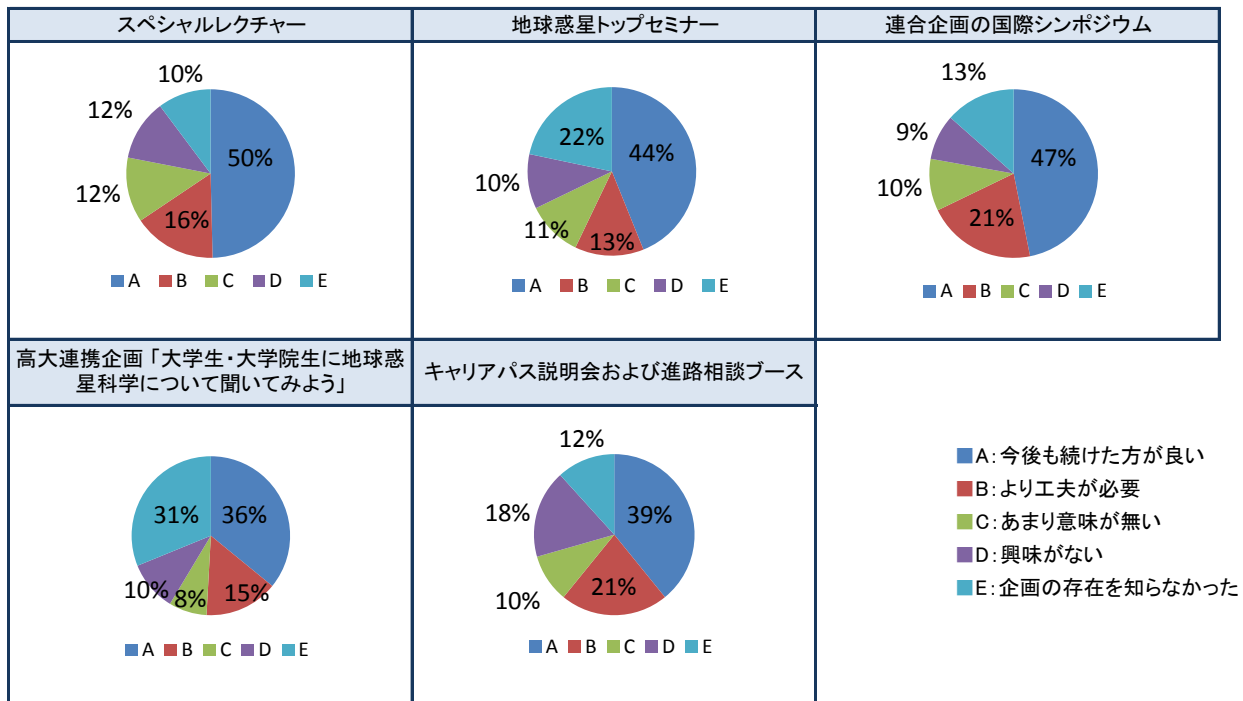
※ポスター講演をしなかった方へ



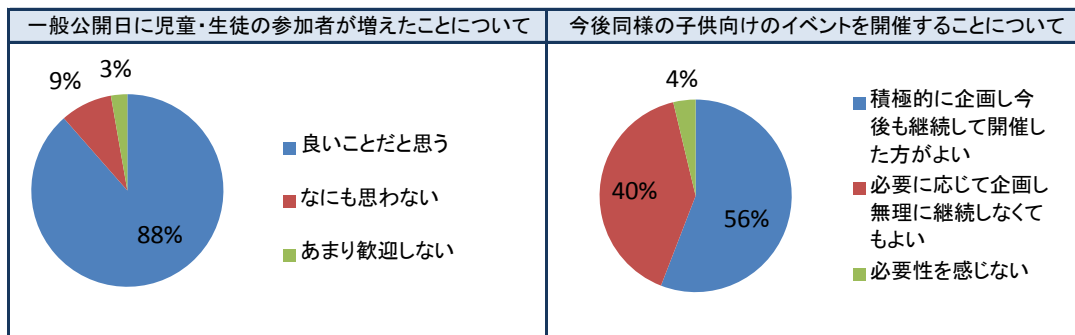
■口頭講演会場について



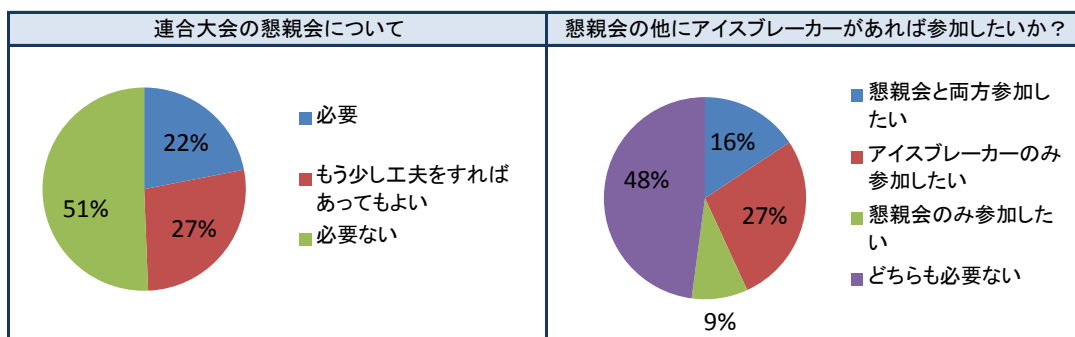
■連合の各種企画について



■(今回の金環日食観望会のような)低年齢層向けのイベントについて



■懇親会について



平成 23 年度 (国際学術)委員会	
担当者名	加藤照之, サイモン・ウォリス
活動報告	
1) EGU2011 会議においてブース展示を行い, 連合の宣伝活動を行った.	
2) AGU2011 秋季大会において, AGU 次期会長と面会し, JpGU との連携について協議を行った.	
3) AGU と協定を締結した.	
4) 2012 年 5 月連合大会において次期委員長, 副委員長を選出した.	
5) 連合の定款の英語版の全面的な書き直しを行った.	
活動時期と内容	
2011 年 4 月	EGU2011 会議においてブース展示
2011 年 12 月	AGU2011 秋季大会において AGU 次期会長と協定について協議
2012 年 2 月	AGU と協定を締結.

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
BETWEEN
JAPAN GEOSCIENCES UNION (JpGU) AND
AMERICAN GEOPHYSICAL UNION (AGU)**

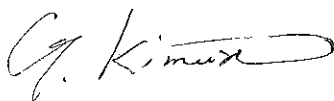
Joint activities between AGU and JpGU foster international exchange in scientific research and promote international opportunities of the membership of both organizations. To that effect, JpGU and AGU will promote the following activities.

1. Exchange of information on key programs and initiatives.
2. Expansion of membership of both organizations through possible joint programs.
3. Exchange of information and possible joint activities concerning educational opportunities student programs, and professional services.
4. Exchange of information and possible co-organization of scientific conferences.

In recognition of mutual interests among their members and as a means of furthering the common goals and objectives of both organizations, the collaborations are carried out under the following terms.

1. Neither organization shall have any financial obligation to the other.
2. Each organization will offer members of the other organization registration at member rates at its annual meeting.
3. Each organization will offer the other organization a booth at its annual meeting at a rate of at least 50% below the regular exhibit fee. If a charge is to be levied this will be agreed at least 6 months before the meeting in question.
4. Both organizations will seek collaboration where appropriate.
5. Both organizations will seek collaboration between the business offices.
6. The respective Union leadership will meet on a regular basis (e.g. in connection with the respective annual meetings) to discuss issues of mutual interest.

This agreement may be dissolved by either organization at any time with 30 days of notice. The agreement shall be reviewed every three (3) years.



PRESIDENT OF JpGU



PRESIDENT OF AGU



VICE PRESIDENT, JpGU



EXECUTIVE DIRECTOR, AGU

DATE: 19 February 2012

DATE: 19 February 2012

AOGS-JPGU Media Partnership Arrangement

We are pleased to confirm partnership arrangements between The Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) and Japan Geoscience Union (JPGU) as follows:

BY JPGU FOR AOGS:

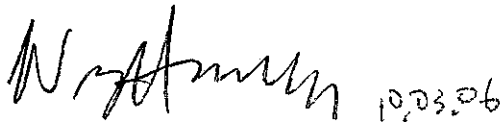
1. AOGS logo and a short write-up on
 - a. JPGU2006 event website with a URL link to AOGS website
 - b. JPGU2006 society website with a URL link to AOGS website
2. A complimentary advertisement in the JPGU publication
Publication: JGL Vol.2 NO.1 (issued on February 1, 2006)
Advertising size: A5 (half page space of JGL)
3. A complimentary poster booth for AOGS advertisement at the JPGU meeting 2006

BY AOGS FOR JPGU:

1. JPGU logo and a short write-up on
 - a. AOGS 2006 event website with a URL link to JPGU website
 - b. AOGS 2006 society website with a URL link to JPGU website
2. A complimentary advertisement in the AOGS 2006 publication
Publication: the AOGS 2006 Annual Meeting program book
Advertising size: A5 (1 page space of program book)
3. A complimentary poster or an exhibition Booth at 50% discount (off current rates) for JPGU advertisement at the AOGS 2006 Annual Meeting.

The arrangement for 2006 stated above is to be updated for the following years with the same contents, unless cancellation or modification of the partnership arrangement is expressed by either of AOGS or JPGU.

For and on behalf of
Asia Oceania Geosciences Society (AOGS)



President Wing-Huen Ip

Institute of Astronomy, National Central
University
300 Zhongda Rd. Chung-Li, Taiwan

For and on behalf of
Japan Geoscience Union (JPGU)



President Yozo Hamano

University of Tokyo
7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo,
113-0033 Japan



Monday, 29 March 2010

Professor Gaku Kimura,
President Japan Geoscience Union
Email: gaku@eps.s.u-tokyo.ac.jp
Cc JPGU Secretariat Office: office@jpgu.org

Dear President Kimura,

As you're aware, the Asia Oceania Geosciences Society (AOGS) and the Japanese Geoscience (JpGU) have a long history of collaboration. For instance, it is standard for AOGS and JpGU to offer each other exhibition booths and help promote each other's annual meetings.

AOGS would like to collaborate more closely with JpGU and to formalise the existing longstanding agreements.

As steps along the path towards better collaboration, AOGS proposes that

- 1) AOGS and JpGU agree to an exchange of exhibition booths, with JpGU providing one to AOGS for this year's JpGU General Assembly and AOGS providing one to JpGU for this year's AOGS meeting in Hyderabad. This should become an annual exchange.
- 2) AOGS and JpGU agree to give each other's members registration at the member rates for their own conferences. Perhaps it is too late to arrange this for the 2010 meetings, but AOGS would be willing to proceed with this for 2010 if JpGU agrees.
- 3) AOGS and JpGU invite their leaders (or representative) to each other's annual meetings, with the registration waived but otherwise on a no exchange of funds basis.
- 4) AOGS and JpGU list each other's assemblies in their lists of upcoming events.

Yours sincerely,

Dong-Kyou LEE, President
Asia Oceania Geoscience Society
Professor, Seoul National University, Korea

07 June 2012

Professor Toshitaka Tsuda
Chairman, JpGU
Kyoto University, Japan

E-mail: tsuda@rishi.kyoto-u.ac.jp

Dear Professor Tsuda,

It is a pleasure to warmly invite you for the AOGS-AGU (WPGM) Joint Assembly being held from 13 to 17 August 2012 at the Resorts World Convention Center, Singapore.

AOGS has developed a comprehensive program, including a series of interesting and enriching plenary lectures by distinguished scientists. The highly regarded Axford Lectures will take place on 13 August by Professor Kurt Lambeck of the Australian National University and Professor Pinxian Wang of the Tongji University. All of the seven sections within geosciences – Atmospheric Science, Biogeoscience, Hydrological Science, Ocean Science, Planetary Science, Solar & Terrestrial Science and Solid Earth Science have planned distinguished lecture.

AOGS looks forward to your continued support and we welcome your participation in the joint assembly, particularly to the functions taking place on Monday - 13 August, Thursday – 16 August and Friday – 17 August, 2012.

Kindly convey your acceptance to this invitation by 11th June 2012 in order to facilitate the required preparations for special guests.

Upon hearing from you, the Secretariat Office will be in contact to help with arrangements for your complimentary registration. If needed, the Secretariat Office will be glad to extend assistance in booking your guest room. Please email your travel details to info@asiaoceania.org by 07 July, 2012.

The program overview is attached for your convenient perusal. For more information about AOGS events and activities, please visit www.asiaoceania.org

Yours sincerely,



Harsh Gupta,
President
Asia Oceania Geosciences Society

Program & Functions

Monday, 13 August – 14:00 to 18:00, Compass Ballroom Central 1 & 2, Basement 2

Welcome, Opening, Axford Lectures, General Assembly & Reception

Welcome, Opening & Axford Lectures

- From 14:00 Please be seated – Members, Guests & Friends of AOGS
 Welcome Address by
 Local Advisory Committee Chair, David Laurence HIGGITT
- From 14:10 Opening Address by
 AOGS President, Harsh GUPTA
 AGU Executive Director, Christine McENTEE
- From 14:30 Axford Lecture 1
 “Sea-level Change Across SE Asia: Past, Present and Implications for the
 Future” by Kurt LAMBECK, The Australian National University

 (Coffee/Tea Break from 15:15 to 15:45)
- From 15:45 Axford Lecture 2
 “Earth connection in a marginal basin: Evolution of the South China Sea” by Pinxian
 WANG, Tongji University

AOGS General Assembly & Axford Medal Award Presentation

- From 16:30 Treasurer’s Report
 Secretary General’s Report
 Presentation of 2011-2012 Axford Medal
 Acceptance Speech by Professor Yohsuke Kamide
 Presentation of Memento to Rotating Out Officers
 Introduction of New Council

 (Adjourn to Welcome Reception – starts 18:00)

AOGS Welcome Reception

- From 18:00 to 20:00
Venue: Compass Ballroom Foyer

Thursday, 16 August - 18:00 to 21:00, Convener’s Dinner

Resorts World → Merlion Park → River Cruise → Grand Shanghai Restaurant

- From 18:00 Meet at the Registration Desk
 Coach Transfer to Merlion Park
 (Last bus leaves at 6:30pm)
- From 21:00 Coach Transfer to Nearby MRT (Public Transport) and Resorts World Sentosa

Friday, 17 August – 12:30 to 14:00, Special Lecture

“The Global Tropical Moored Buoy Array:
30 Years of Progress in Observing, Understanding and Predicting Climate Variability”
by Michael J. MCPHADEN,
*National Oceanic and Atmospheric Administration
President, American Geophysical Union*

Memorandum on cooperation between JPGU and EGU

In order to promote research in the Earth and Planetary sciences, the European Geoscience Union (EGU) and the Japan Geoscience Union (JPGU) will cooperate to enhance the activity of their members.

1. The JPGU and EGU will distribute the following information to their respective members by email, newsletters or web servers.

- Information on meetings convened by either side.
- Information on research employment.
- Other information that will benefit researchers.
- Information on scientific publications

The means of circulation of information will be coordinated between both parties' secretariats.

2. A link to the JPGU/EGU homepage will be posted on the "collaboration with national and international geophysical societies" section" link from the homepage of EGU and JPGU using the logos of JPGU/EGU.

3. At both parties' annual conferences, a co-sponsored session by EGU/JPGU will be encouraged.

4. At the EGU/JPGU annual conferences, if requested, an exhibition booth will be provided free of charge.

5. The executive officers of EGU and JPGU will undertake to have a meeting once a year to discuss this cooperation. This meeting will be held at an appropriate EGU or JPGU annual meeting.

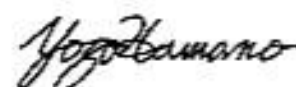
The agreements in this memorandum become effective on January 1st, 2007 .

On behalf of EGU

EGU president
John Ludden

The British Geological Survey
Keyworth, Nottingham, NG12 5GG
United Kingdom

On behalf of JPGU



Yozo Hamano,
JPGU Chairman

The University of Tokyo
Tokyo, Bunkyo-ku, Hongo 7-3-1,
113-0033
Japan



AGU FALL MEETING

San Francisco | 3–7 December 2012

Registration Rates

Registration will open in mid-July. The deadline to [renew or join](#) AGU for 2012 and be eligible to receive the member registration rate is **1 October**.

Fee Schedule

	By 2 November	After 2 November
MEMBER		
Regular: Full Conference	\$395	\$485
Regular: One Day Conference	\$195	\$285
Senior (65 & Retired): Full Conference	\$195	\$285
Senior (65 & Retired): One Day Conference	\$100	\$190
Student (Graduate Level): Full Conference	\$195	\$285
Student (Graduate Level): One Day Conference	\$95	\$185
NONMEMBER		
Regular: Full Conference	\$495	\$585
Regular: One Day Conference	\$250	\$340
Student (Graduate Level): Full Conference	\$250	\$340
Student (Graduate Level): One Day Conference	\$125	\$215
<u>TIER 2 MEMBER/NONMEMBER</u>		
Regular: Full Conference	\$195	\$285
Regular: One Day Conference	\$100	\$190
Student (Graduate Level): Full Conference	\$100	\$190
Student (Graduate Level): One Day Conference	\$50	\$140
<u>TIER 1 MEMBER/NONMEMBER</u>		
Regular: Full Conference	\$0	\$90
Regular: One Day Conference	\$0	\$90
Student (Graduate Level): Full Conference	\$0	\$90
Student (Graduate Level): One Day Conference	\$0	\$90
OTHER CATEGORIES (Member/Nonmember)		
High School Student: Full Conference	\$0	\$0
High School Student: One Day Conference	\$0	\$0
K-12 Teacher: Full Conference	\$0	\$0
K-12 Teacher: One Day Conference	\$0	\$0
Undergraduate: Full Conference	\$100	\$190
Undergraduate: One Day Conference	\$50	\$140
TICKETED EVENTS		
Honors Banquet	\$85	\$85

Registration Rates for Attendees from Tier 1 and 2 Countries

Discounted registration rates are available to attendees from countries classified by the World Bank as [low-income \(Tier1\)](#) and [lower-middle income \(Tier 2\) economies](#). These income classifications are updated each 1 July. Please refer to the [World Bank's website](#) for information on their classification system and for the latest list of Tier 1 and 2 countries.

Guest Policy

Registered attendees may purchase Guest Passes. The cost before 2 November is \$35 and \$50 after 2 November. A guest is a spouse, friend, or adult child (18 years old and older) who is not working in a geophysical science related occupation or field. A colleague or associate working in a related geophysical sciences field or studying geophysics in school may not be registered and attend as a guest. Registered guests may not attend the scientific sessions, however, they may go to the Exhibit Hall and attend and purchase tickets to social events at the advertised rates.

Cooperating Societies

Members of the following cooperating societies qualify to register at the Member rate:

- American Congress on Surveying and Mapping
- American Meteorological Society
- American Society for Photogrammetry and Remote Sensing
- [Asian Oceania Geosciences Society](#)
- Asociación Latinoamericana de Geofísica Espacial
- Canadian Geophysical Union
- Chinese Geophysical Society
- [European Geosciences Union](#)
- Geochemical Society
- Geological Association of Canada
- Geological Society of America
- Mineralogical Society of America
- Society of Exploration Geophysicists
- Soil Science Society of America
- Unión Geofísica Mexicana

Cancellation Policy

Written notification of registration cancellations must be sent to agu@experient-inc.com. Registration cancellations received by 2 November 2012 will receive a complete refund. Cancellations received between 2 November 2011 and 12 November 2011 will have a \$50 processing fee deducted from their refund. No refunds will be issued for registrations or ticketed events cancelled after 12 November 2011.



Fees & Registration

Fee Table (Registration Opens 9 April)

Prices are in Singapore Dollars and Includes Applicable Taxes

Prices are in Singapore Dollars and includes Applicable Taxes

Conference Registration	Early Bird Rate	Normal Rate	Late/Onsite Rate
	If Paid By 4 Jun 2012	If Paid By 6 Aug 2012	If Paid After 6 Aug 2012
AOGS/EGU/AGU Members			
Standard Rate	570	700	770
Student Rate	290	350	385
Non AOGS/AGU/EGU Members			
Standard Rate	735	900	990
Student Rate	375	450	495
Reduced Fee details			
Standard Rate	350	NA	NA
Student Rate	175	NA	NA
Retirees details			
Retiree Rate	375	450	495
Additional Registration Fee			
For Each Abstract in excess of Two	350	350	350
One-Day Fee details			
Industry Participants Only (i.e. non-abstract writer and/or presenter)	290	350	385
Exhibition and Print Ads(Terms: Full payment within 21 days from date of invoice) details			
Exhibition			
Exhibition – Full Package (Standard Size 3m x 2m x 2.5mH)			4,200
Brochure Display on Shared Table			1,660
Print Ads in Conference Program Book (9.75" Height x 6" Width)			
Inside Back Cover – Full Colour Ad in Program & Abstract Book			3,600
Inside Full Page – Full Colour Ad in Program & Abstract Book			2,400
Inside Full Page – Black & White Ad in Program & Abstract Book			1,800
Donation & Sponsorship			
Donation & Sponsorship			Any Amount

Registration Policy (Registration Opens 09 Apr)

Authors/Presenters

1. It is expected that at least one author attends the meeting to present the accepted abstract.
2. Authors whose abstracts are accepted must register their meeting attendance by **4 Jun 2012**.
 - Non-member authors need **register and pay fees** by **4 Jun 2012**, or papers will be withdrawn
 - Member authors need **register** attendance by **4 Jun 2012** or papers will be withdrawn
3. At the time of registration, the IDs of the abstracts to be presented must be provided. Otherwise, the abstract is considered NOT registered and risk being withdrawn.
4. Each registration fee covers **TWO presentations maximum**. An additional registration fee applies for each abstract in excess of the TWO presentations/abstracts.
5. **Authors are NOT eligible for the one-day pass**. One-day pass is strictly for industry participants who do not submit abstracts and/or make presentations.
6. Registration confirmation is subject to payment being received. Once payment is received, the transaction records can be viewed / printed online.

7. **Student Registration** Requires Identification. **You will be required to upload a scanned copy of your student proof at the end of the registration process.** Acceptable documents for student proof are:
 - a. Your matriculation card with clear indication of the expiry date.
 - b. A status proof letter endorsed by your school, which should show the following information:
 1. Student name
 2. Student matriculation number (student ID)
 3. Expiry date
 4. University name

Retirees

- Retirees are defined to be the delegates who are over the age of 60 and are not employed more than 10% of full time in a professional capacity.

Industry Participants

- Industry Participants are defined as individuals who do not submit abstract and do not make presentations.
- An Industry Participant is eligible to purchase a One-day pass for the chosen meeting day. The pass holder is entitled to attend all sessions for the day.
- If attending more than 2 days, full fee is applicable and as shown in AOGS/AGU/EGU - Members/Non Members Category.
- One-day rates are not applicable to Authors and Presenters

Cancellation/Withdrawal Policy

- Is applicable to any purchases, including field trips, tours, conference registration, optional items, etc.
- There will be no refund for cancellation/withdrawal received after **25 Jun 2012**.
- For cancellations before **25 Jun 2012**, a SGD80 administrative fee applies.

Indemnity

- While the organizer will make every effort to screen operators and observe best safety practices, the individual must accept personal responsibility for insurance against travel risk and injury.
- AOGS encourages all participants to purchase adequate travel and personal insurance.
- Participants on field trips/tours agree to indemnify AOGS against any claims as arising from injury or loss sustained during the outings.

Payment Methods

1. **By Credit Card:**
 - VISA/MasterCard/AMEX Only
 - 6 August 2012 will be the last day for processing payment by credit card. After this date, please register and make payment onsite at the conference.
2. **By Telegraphic Transfer/ Demand Draft/ Cashier's Order:**
 - 9 July 2012 will be the last day for accepting payment by this method.
 - An additional SGD80 administrative fee will be charged to anyone who chooses this payment method. Please add the amount to your payment.
 - Bank Details
 Please Pay to: **Meeting Matters International Pte Ltd**
 Bank Name : DBS Bank Ltd
 Bank Address : 6 Shenton Way, DBS Building, Singapore 068809
 Account no : 003-902606-4 (for Singapore Dollars)
 Bank Code : 7171
 Branch Code : 003
 Swift Code : DBSSSGSG
 Payable to : **Meeting Matters International Pte Ltd**
 Please include conference name **AOGS 2012**, Registrant Name and Registration ID in the bank document and email a scanned copy of proof of payment to info@asiaoceania.org
3. **By Cheques – Must be issued by Singapore Banks only**
 - 9 July 2012 will be the last day for accepting payment by this method.
 - Please mark clearly conference name **AOGS 2012**, Registrant Name and Registration ID on back of cheque. Please pay to "Meeting Matters International Pte Ltd".

After 6 August 2012 - "Pay onsite"

Please proceed to "Payment Onsite" Counter at the convention centre during the conference

1. **By Credit Card:**
 - VISA/MasterCard/AMEX Only
2. **By Cash:**
 - Cash payment must be in EXACT AMOUNT as we shall be unable to return change



Registration

General Information

1. Registration for the EGU General Assembly 2012 is by payment of the appropriate registration fee.
2. There is no waiving of registration fees except for scientists receiving a Support Award or an Union/Union Division Award or Medal.
3. Please, renew your membership in the EGU upon registration to benefit from reduced member rates!
4. The registration fee includes the participation in the meeting, a public transportation ticket, the information & schedules book, as well as the abstract USB flash drive. The public transportation ticket is valid from Monday – Friday, 23 – 27 April 2012 within Vienna (Zone 100). Please note that this ticket does not cover the transportation from and to the airport.

Registration Fees

Categories	Pre-Registration Rates (Deadline 22 March 2012)		On-Site Registration Rates	
	Week Ticket	Day Ticket	Week Ticket	Day Ticket
EGU Regular Member 2012 (1)	€350	€190	€380	€210
EGU Student Member 2012 (1) (*)	€200	€110	€230	€130
EGU Emeritus Member 2012 (1) (**)	€200	€110	€230	€130
Regular Non Member	€390	€210	€420	€230
Student Non Member (*)	€220	€120	€250	€140
Emeritus Non Member (**)	€220	€120	€250	€140
Undergraduate Students (*)	€100	€55	€100	€55
Accompanying Person (who do not take part, neither actively nor passively, in the scientific programme but who just want to enter the congress centre)	not available	not available	€75	€40

(1) Participants having paid their annual membership fee for 2012 to the European Geosciences Union (EGU) and/or to the American Geophysical Union (AGU)/Asia Oceania Geosciences Society (AOGS).

(*) Please enclose/show proof of status.

(**) Age 60 or older and retired from full-time employment.

Conditions and Cancellation Policy

- Pre-registration must be accompanied by a payment, otherwise it will not be processed and the on-site registration rates will be taken as a basis.
- Registration fees are not transferable.
- Registration fees will only be refunded, if the notice of cancellation is received by Copernicus Meetings before 02 April 2012. The cancellation fee is €50.
- Cancellations after 02 April 2012 and no-shows are not eligible for a refund.
- Any claims must be received by Copernicus Meetings not later than 6 weeks after the last day of the conference. Any later requests cannot be handled.